

奥羽大学報



卒業証書・学位記授与式 答辞 歯学部 菊地 英樹君

目次

平成 26 年度卒業証書・学位記授与式	2
学位論文題名一覧	4
卒業記念贈呈式／謝恩会／歯科医師国家試験／薬剤師国家試験	5
中学生のための科学実験講座／歯学部第 5 学年臨床実習学外研修／ 「災害時の身元確認」に関する講演／薬学部の職業研究セミナー／ 訪問薬剤師業務に関する講演会	6
無垢サロン／SD 研修会	7
赤川安正学長、日本歯科医学会会長賞を受賞／薬学部研究紹介	8
歯学部研究紹介	9
論文付図が Tissue & Cell 誌の表紙を飾りました／国際学会	10
「サリドマイド禍から学ぶ」を聴講して／ 「目標めざして」と学生にエール ～郡山駅長さんを訪問して～	11
附属病院／自著を語る	12
郡山市教委と学習支援に関する協定	13
スポット学友会／奥羽大 now	14
父兄会	15
図書館で 3.11 写真展／同窓会だより	16
同窓生のひろば	17
人事／新任教授紹介	18
退職によせて	19
お知らせ	20

平成26年度卒業証書・学位記授与式

平成26年度卒業証書・学位記授与式が3月10日(火)午後1時より本学記念講堂において挙行された。

式典は、多数の来賓のご臨席を賜り、保護者や教職員が参列するなか、厳粛に進行した。

来賓を代表して学校法人晴川学舎影山英之理事長が祝辞を述べられ、赤川安正学長が告辞を贈った。卒業生を代表して歯学部菊地英樹君が答辞をした。

歯学部歯学科63名、薬学部薬学科78名に卒業証書ならびに学位記が、また大学院修了者9名と論文提出者1名に博士(歯学)の学位記が、それぞれ一人ひとりに授与された。

さらに成績優秀者には晴川賞と優等賞が贈られた。

◆晴川賞

薬学部薬学科 福外 萌真

◆優等賞

歯学部歯学科 鈴木 幹子

歯学部歯学科 菊地 英樹



福外 萌真君



鈴木幹子君(左)、菊地英樹君(右)

祝 辞

理事長 影山 英之

卒業証書並びに学位記を掌にされます皆さんと、御臨席なされましたご父母各位に心よりお祝いを申し上げます。本日はまことにおめでとうございます。

今、翔び立たんとする皆さんの胸中には、これまでの様々な経験の記憶が去来していることと拝察します。経験から何を学ぶかは人それぞれにより異なるかもしれませんが、経験したことは一つとして無駄なことはなく、必ずや皆さんの人生に豊かな実りを齎す、良質な肥料となってくれることでしょう。

とりわけ志を持って六年の歳月を費やした本学で、皆さんが「物事の本質を捉える大切さ」を学んでくれれば、私共にとってこれ以上の喜びはありません。今より後、何事も一朝一夕に出来ることばかりではありませんが、困難が全てでもありません。今、自分の前になすべきことがあれば、できぬ心配をするよりは、できたと

きの喜びを心に描いてやってみることです。失敗は成功の母、何度でも立ち直る努力を厭わなければ、挫けることは恥にはなりません。

今日の仕事を明日に延ばさず、今日の仕事としてやり遂げることです。一日一日実行し、繰り返し、積み重ね続けていく先に、新たな可能性が生まれ、目標は必ず達成されます。

千年に一度あるか無いかの大地震に遭遇し、早四年を数えます。被害を受けた街並みも其抛此抛にポツリポツリとですが、復興住宅が建ち始めました。原発は制御不能のままで痛ましい姿を晒しておりますがこのような中にあっても、本日の晴れの卒業式を迎えられた皆様程、力強い存在はありません。どうぞこの勢いを持ち続けられて、限りなく前進して下さい。

皆さんが常に良識と善意を備え、社会から求められる立派な歯科医師又は立派な薬剤師となって、地域社会に貢献され、世界平和に寄与してくれることを希っております。本日はおめでとうございます。

告 辞

学長 赤川 安 正

卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。また、卒業生のご両親、ご親族の皆様には今日の日を大きな喜びをもってお迎えのことと存じ、心よりお祝いを申し上げます。

本日、ここに、学校法人晴川学園理事長影山英之先生を始めとするご来賓の方々と、卒業生のご両親、ご親族の方々のご臨席を賜り、平成26年度の卒業式を挙げてまいりましたことは、本学にとって最も大きな喜びとするところであります。

本学は「人間性豊かな歯科医師を育成する」ことを建学の精神に掲げ、1972年、東北・北海道地域における唯一の歯科大学として創設され、2005年には、高齢社会に突入した地域の保健医療福祉の向上を担う「人間性豊かな薬剤師を育成する」ため、歯学部との連携のもと、福島県で唯一の薬学部を創設いたしました。以来、本日で、歯学部では4,057名の卒業生を、薬学部では542名の卒業生をそれぞれ輩出することとなります。

現在、我が国は世界に類をみない速度で超高齢化が進んでいます。このような中において、国民の最大の関心事は、単なる長生きではなく、健康で自立して長生きをする「健康長寿」であります。この「健康長寿」に大きな貢献ができるのが、歯科医師であり、薬剤師なのです。すなわち、歯科医師の最も大きな仕事は、国民のひとりひとりが、元気な時はもちろんのことですが、要支援や要介護の状態になっても、口腔の機能を維持させて「口から食べる生きる喜び」を与えることでもあります。一方、薬剤師の最も大きな仕事は、様々な病気に苦しむ患者さんに最も適切な薬物療法を提示し、責任をもってそれを実施することにより「自立して生きる喜び」を与えることでもあります。

卒業生の皆さんは、自らの夢である「歯科医師になる」「薬剤師になる」ことを実現するため、この郡山の地で出会い、この郡山で学んできました。ひたむきに、できる限りの努力を丁寧に積み重ねてきました。その学びの時間の中では、学識の獲得と共に一生の友情も育んだに違いありませんし、また一方では、学習方法や友人関係で悩んだこともあったものと拝察いたします。更に、誰も経験したことのない東日本大震災に遭遇し、また福島第一原発事故による風評にもさらされ、大変な困難もあったことと思います。そのような中であっても、

医療系大学の学生として正しい判断の下に行動し、今日まで学業に励んでくれたことに、心から敬意を表するものであります。

卒業生の皆さんは今後、歯科医師として、あるいは薬剤師として活躍し、社会と国民に奉仕をするわけですが、医療現場における多職種の協働では、「誠実」、「コミュニケーション」、「チームワーク」、「高い倫理観」などが必須の事柄です。皆さんは本学の建学の精神である「人間性豊かな医療人を育成すること」を達成した具現者でありますから、必ずや多職種協働での中心的役割を果たしてくれるものと確信をしています。

時代は明らかに皆さんを求めています。こままで大きくくださったご両親、ご家族、ご親族への感謝の気持ちを決して一時も忘れることなく、自らの夢をしっかりと追いかけて下さい。そのためにできる限りの努力を惜しまないで下さい。そして、自らの能力を信じ、それを大きく伸ばし、奥羽大学卒業生としてのプライドを背負って活躍してくれることを期待しています。その活躍こそが、東北地域における医療面での復興に大きく貢献するものと確信をいたします。母校奥羽大学も、皆さんの活躍に負けないように、さらに発展する決意であります。

結びに、卒業生の皆さんのご健康と今後のご活躍を心から祈念申し上げ、これを告辞といたします。

答 辞

卒業生代表 菊地 英 樹

爽やかな春をつたえるそよ風のかおりとともに、私たちは卒業の日を迎えることができました。本日は、私たちのためにこのような晴れやかな卒業式を催して頂きまして、卒業生一同心より御礼申し上げます。

理事長先生、学長先生をはじめ、ご来賓の先生方、関係各位の皆様のご臨席ならびに、激励のお言葉を賜り、誠にありがとうございます。

6年間の実りある大学生生活を振り返りますと、月日の流れというものはとても早く感じます。6年前、私たちは大きな希望や不安を胸に本学に入学いたしました。一日、一日と日を重ねるごとに医療という新たな学問を学ぶことの楽しさ、時に戸惑いながらも専門的な知識を深めることに喜びを感じました。

その中で同じ目標に向かって励み、感性や悩みを共有してきた仲間、根気強く丁寧にご指導くださった先生方のおかげでいかなる困難も乗り越えることができました。そして、私たちの心の支えとなってくれた家族には本当に感謝しています。

多くの方々の温かな支えのおかげで、今日を迎えられたことに卒業生一同、心より感謝申し上げます。

私たちはこれからそれぞれの道を進みますが、また新たな壁に突き当たるかもしれません。いかなる状況下でも奥羽大学で学び得た知識や経験を糧に、日々変化し続ける医療の現場と一途にそして一心に向き合い、各々の力を十分発揮し、社会のさらなる発展に貢献していきたいと思えます。

医療の担い手として相手を思いやる優しさを常に忘れず、人間性豊かな歯科医師、薬剤師を目指し、絶えず努力を進め、未来を私たちの手で切り開いていく所存でございます。

本日までご指導くださいました諸先生方ならびに大学関係者の皆様に、厚く御礼申し上げますと共に今後も変わらぬご指導ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

最後となりましたが、諸先生方ならびにご来賓の皆様により一層のご健勝と、奥羽大学のますますの発展を心より祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

学位論文題名一覧

学位取得者	専攻・講座	論文題名
田中 絵里	生体管理理学	Changes of Lidocaine Concentration in the Jaw Bone and Oral Mucosal Tissue by the Addition of Adrenaline to Local Anesthetic (局所麻酔薬へのアドレナリン添加による顎骨や粘膜の組織内リドカイン濃度の変化)
吉田 健司	生体管理理学	Effect of Injection Pressure of Subperiosteal Infiltration Anesthesia on Local Anesthetic Infiltration to the Jaw Bone (骨膜下浸潤麻酔の注入圧が顎骨への局所麻酔浸潤に与える影響)
鈴木 厚子	口腔生理・生化学	Acidic Extracellular pH Promotes Epithelial Mesenchymal Transition in Lewis Lung Carcinoma Model (酸性細胞外pHは、Lewis肺癌モデルにおける上皮間葉系移行を促進する)
伊藤 隼	口腔機能回復学	苦味受容機構とTAS2Rs発現量の関連
柏原 祥顕	口腔組織構造生物学	マウス有郭乳頭における活性酸素合成酵素(Nox)の発現
佐藤 篤	顎口腔外科学	ラット切歯に達するインプラント埋入が切歯根尖に与える影響—下顎切歯形成端における組織的形態的検索—
寺本 育司	口腔感染症学	アジスロマイシンの免疫修飾作用
菊池 直宏	口腔感染症学	再現性が高い口腔カンジダ症マウスモデル
中島 宗隆	保存修復学	Ectodinがラット象牙芽細胞様細胞の分化に及ぼす影響について
佐久間隆章	歯科補綴学	傾斜埋入インプラントの作業用模型におけるアナログ変位に及ぼす印象材の硬度の影響—印象用コーピング非連結での検討—

卒業記念贈呈式

3月6日(金)、平成26年度卒業記念贈呈式が午後1時より学長室にて行われた。

歯学部代表の菊地英樹君、薬学部代表の津倉秀幸君から卒業記念として20万円が贈呈された。

赤川学長から「君たちの後輩と大学のために、大切にに使わせていただきます。人間性豊かな歯科医師・薬剤師になってほしい」との謝辞があった。



謝恩会

歯学部

3月10日(火)卒業証書・学位記授与式当日の午後7時よりホテルハマツにおいて、歯学部38期卒業準備委員会の主催により謝恩会が開催された。

大野歯学部長、渡辺友彦歯学部同窓会会長からの祝辞、学年主任の高田教授より卒業生への贈る言葉をいただいた。

卒業生たちは恩師や学友、保護者と6年間の大学生活の感謝や思い出を和やかに語り合っていた。



薬学部

3月10日(火)、卒業証書・学位記授与式当日の午後6時より、郡山駅前ビューホテル・アネックスにおいて、薬学部7期卒業準備委員会の主催による謝恩会が開催された。衛藤薬学部長の挨拶ではロシア革命の際のポーランド孤児を日本赤十字社が救った歴史が紹介され、続いて学年主任柏木教授より、卒業生各々の今後に対する期待が表明された。卒業生たちは、それらを受けて、和やかな語らいの中にも、秘かな覚悟を滲ませていた。



歯科医師国家試験

1月31日(土)、2月1日(日)、宮城県仙台市にて第108回歯科医師国家試験が行われた。合格発表は3月18日(水)に厚生労働省のホームページ、各地方の厚生局で発表された。

本学からは163名が受験し、合格者は63名であった。そのうち新卒者は63名が受験し、合格者は24名であった。

薬剤師国家試験

2月28日(土)、3月1日(日)の両日に産業見本市会館サンフェスタ(宮城県仙台市)で第100回薬剤師国家試験が行われた。

合格発表は3月27日(金)に厚生労働省のホームページ、各地方厚生局で発表された。

本学薬学部からは135名が受験し、合格者は52名であった。そのうち新卒者は78名が受験し、合格者は31名であった。

中学生のための科学実験講座

昨年の12月25日(木)に県内より約20名の中学生が参加し「中学生のための科学実験講座―目指せ!科学捜査官(中級編)―」を開催した。

講師は全国各地でサイエンスショーや実験講座を行っている和田重雄准教授(薬学部)が務め、学生スタッフ(薬学部1年生)のサポートのもと、DNA鑑定、指紋検出、ルミノール反応、ブラックライトの各実験を行った。

参加した受講生たちは、楽しみながらも科学的関心を高めたようである。



歯学部第5学年臨床実習学外研修

2月24日(火)から3月18日(木)にかけて、歯学部第5学年臨床実習生の学外研修が福島市の生愛会ナースングケアセンター(老健)と西郷村の太陽の国(特養2施設と障がい者支援施設2施設)で実施された。本研修は医療介護連携を理解することを目的としており、本年度は40名の実習生全員がいずれかの施設を訪問した。

主な研修内容は食事介助、口腔ケア、利用者との交流であった。実習生から診療室とは異なる貴重な体験が得られたとの感想が聞かれた。



「災害時の身元確認」に関する講演

3月2日(月)、歯学部花岡洋一教授が茨城海上保安部および海上保安部日立分室の隊員50名の前で講演をした。テーマは「歯科的個人識別の実際―東日本大震災における活動報告とともに―」。

本学歯学部並びに茨城県同窓会と茨城県歯科医師会の三者は平成25年2月14日(木)、「災害時の身元確認活動に関する協定」を結んでいる。

薬学部の職業研究セミナー

昨年の12月18日(木)・19日(金)の2日間、薬学部生を対象とした職業研究セミナーが本学メモリーにて開催された。病院、調剤薬局など107社の参加があり、本学学生と面談を行った。

会場は活気に溢れ、人事担当者の話に熱心に耳を傾ける姿が見られた。



訪問薬剤師業務に関する講演会

昨年の12月18日(木)に広島大学大学院臨床薬物治療学教室教授である、森川則文博士により、「マイクロTDMの臨床展開」の演題名で教育研修・講演会が開催された。これは、患者自身が自己穿刺による採血を行うことにより、薬剤師が生化学的検査や薬物濃度を測定し、結果を患者に報告することにより患者の状態や住民の健康状態を客観的に把握できるもので、今後の訪問薬剤師業務の方向性を示唆するものである。講演会場には教職員や学生が森川博士のPT-INR測定に基づいた抗凝固療法に対するアドバイスの例などの講演内容を熱心に傾聴していた。



来たれ超高齢社会

病院長 杉田 俊博

本邦は世界が経験したことのない超高齢社会と、人口減少という新たな局面を迎えています。平成26年度の一般会計予算約95.9兆円(内 税収50兆円)で、医療費は約40兆円と膨らみ、高齢者を支えるべき若年人口の急速な減少と1000兆円を超える借金を抱える国家財政を考えると、後期高齢者の増加に応じて施設や人員を増強することは、破綻する可能性が極めて高いと言われています。

まずは、地域全体を包括する医療提供体制の確立が必要です。有効・効率的な医療資源の活用を進めていくためには、地域の医療機能の分化と連携がますます重要であると言われています。医療制度構造改革の中においても、医療計画制度を見直し、限られた医療資源を有効に活用し、質の高い医療を実現することが求められます。急性期から回復期まで、切れ目ない医療が受けられるような連携体制を各地域に構築することが期待されるわけです。

歯科における平成26年度診療報酬改定では、歯科治療の需要の将来予想は『健常者型(歯の形態の回復)』から『高齢者型(口腔機能の回復)』へ移行すると述べられ、在宅歯科ネットワーク(希望患者情報及び在宅医療実施歯科医師・歯科衛生士情報の共有、歯科と医科病院・介護施設との連携)を推進しています。それは平成25年度本邦における死亡順位第3位(高齢者では第1位)が肺炎(122,969名)であり、その予防や改善に口腔ケアや摂食嚥下リハビリの必要性が叫ばれているからです。

これから高齢者、特に団塊の世代以降の多くの高齢者は「食べられなくなった場合、自然に亡くなってほしい」という主張をする人が急速に増え、その子ども世代である団塊ジュニア側も、親の主張を受け入れる人が増える傾向にあります。現在の高齢者ケアは、寝たきり高齢者への栄養補給、おむつ替え、清拭、褥瘡処置などのイメージが強いが、上記のような変化がおきれば、このようなケアを必要とする高齢者が激減することになります。一方、今後認知症の高齢者が激増することが予想されるので、高齢者施設においては寝たきりの比率が下がり、その減った部分に認知症高齢者が入ることになり、よって2025年以降の高齢者医療やケアは、元気および虚弱の高齢者の生活支援と、認知症高齢者の介護が中心になると言われています。

以上の如く歯科医療が果たす役割は益々増え、QOL(人生の質)やQOD(死の質)を考えた時、咀嚼・嚥下・呼吸など口腔機能を改善することが、尊厳死を尊ぶ医療となると私は思います。

SD研修会

事務局SDを昨年の12月25日(木)に開催した。

今回は、「知っておきたい私立大学関連の法規」と題し、教育基本法、学校教育法、私立学校法など、大学の管理運営や教育・研究支援に関わる多くの規則のなかから知っておきたい規則をピックアップし、佐藤和義学事部長が分かりやすく解説した。

若手の事務職員・技術職員等にとって必須の知識となることから、事務局全体の資質向上をはかる意味でも良い機会となったようだ。

※SD(スタッフ・ディベロップメント)とは、大学職員を対象とした資質向上のための取り組みのこと。

ころにひびくことば

いん すい し げん
飲水資源

「水を飲むときには、井戸を掘った人の苦勞を忘れてはならない」という意味。

先人の苦勞に感謝すること、
または世話になった人から受けた恩を
忘れてはいけないということ。

赤川安正学長、日本歯科医学会会長賞を受賞

平成27年2月23日(月)、平成26年度日本歯科医学会会長賞を受賞しました。この会長賞は日本歯科医学会の中で最も名誉あるもので、「研究」「教育」「地域歯科医療」の3部門で特に顕著な貢献や著しい功績があったと推薦機関(学会、大学、日本歯科医師会など)が推薦した後、選考されるものです。私は一般社団法人日本補綴歯科学会から研究部門で推薦され、「口腔インプラント学分野ではインプラント体埋入のための骨増生用細胞治療の先駆けとなる骨芽細胞導入人工骨の開発と骨増生・インプラント体埋入をパッケージ化したデバイスを国際特許を取得して普及に努めたこと、高齢者歯科学分野では義歯装着により誤嚥性肺炎のリスクを低減し、転倒防止や低栄養の改善ができることを初めて明らかにしたこと」など、世界をリードする優れた先端的研究を進めたことが評価されました。この受賞を機に、奥羽大学を中心にさらに先端的研究を進めたいと考えています。(文責：赤川安正)

歯学部同窓会長 渡辺友彦氏より、祝辞の談話をいただきました。ここに紹介します。(編集部)

「日本歯科医学会会長賞受賞おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。永年に亘るためまぬご努力の賜物と敬服いたします。新たなる奥羽の地でさらに一層のご躍進ご発展をなさいますようお祈り申し上げます。奥羽大学歯学部同窓会長 渡辺友彦」

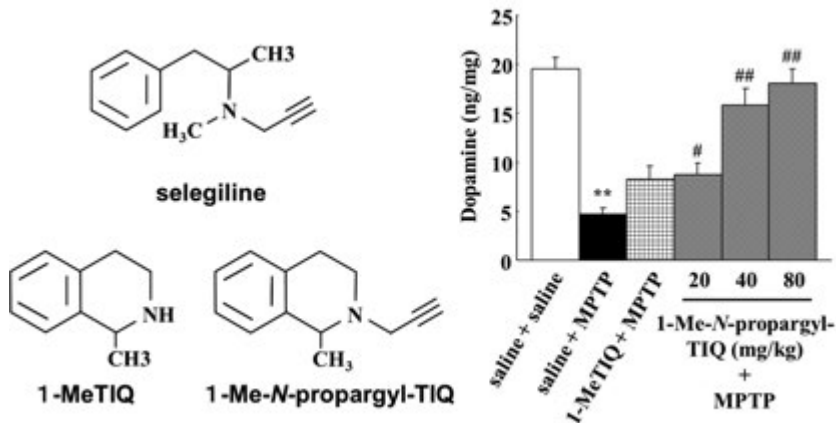
薬学部研究紹介

パーキンソン病治療薬の探索 —内因性アミンとの関連性—

薬学部 薬理学分野 講師 阿部賢志

パーキンソン病 (PD) は運動障害を主徴とした神経変性疾患であるが、その原因は依然として明らかとなっていない。発症の原因として諸説ある中で、合成麻薬の不純物であるMPTP (強烈なPD様症状を誘発する) の発見を契機にPD誘発物質の探索が行われ、その結果としてMPTP類似化合物である1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline (TIQ) が注目された。TIQは内因性アミンであり、チーズや牛乳、バナナなどの食品にも含まれる。TIQおよびその誘導体の多くは脳内ドパミン含量を減少させ、PD様症状を発症させるが、一部のTIQ誘導体はMPTPによるPD誘発を抑制することが報告されている。

私の研究室では、TIQに導入する官能基の種類と薬理作用の変化との関連性、特に構造活性相関の観点から新規PD治療薬の探索を中心に研究活動を行っている。一例として、神経保護作用を有する1-MeTIQに対し、PD治療薬であるセレギリンに含まれる官能基であるpropargyl基を導入することにより、その作用は顕著に増強されることを明らかにした。今後は、より作用を増強する官能基や化合物の探索を続けたい。



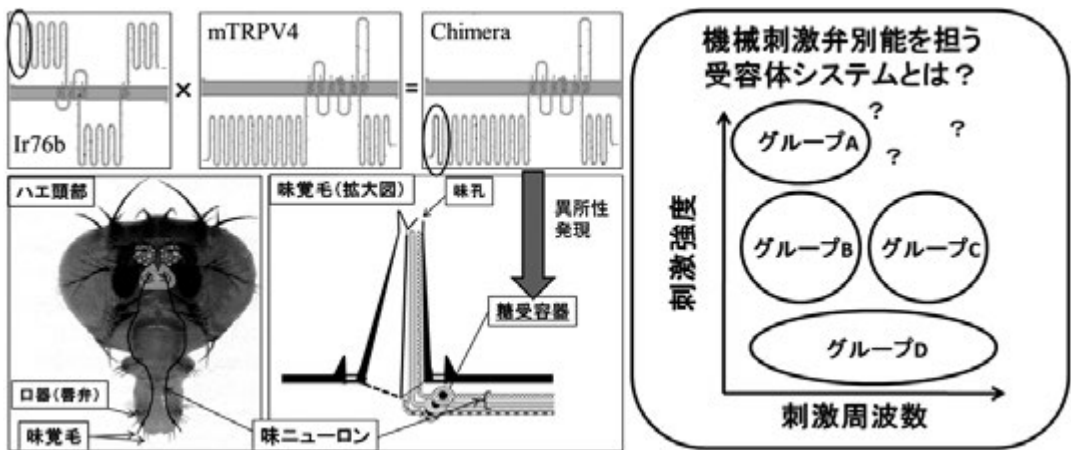
歯学部研究紹介

遺伝子改変ショウジョウバエ味覚器を使って動物の触覚や痛覚のメカニズムを解明する

口腔機能分子生物学講座 助教 古山 昭

触覚、聴覚、平衡覚などは機械感覚と呼ばれ、感覚器の物理的な動き（機械刺激）に対して高精度な質的・量的弁別能を備え、動物行動において極めて重要な機能を果たしている。機械刺激弁別能の基礎としては (A) 受容体タンパク質自体の性質 (B) 受容体、細胞内骨格など種々のタンパク質が複合した細胞レベルの性質 (C) 感覚器官の構造、などがあり、哺乳類の聴覚・触覚では (B)、(C) の要素が大きいと考えられている。しかし、他の感覚モダリティでは、視覚、温度感覚、化学感覚などで刺激弁別は要素 (A) が基礎になっており、機械感覚においても、触覚の一部や痛覚、昆虫の聴覚など、シンプルな感覚器が刺激受容を担う場合は要素 (A) が弁別能に寄与する可能性が考えられるが、十分に検討されていない。私は種々の機械刺激受容体の応答閾値を刺激強度-周波数平面にマッピングしてサブグループに分類し、受容体分子レベルでの機械刺激弁別メカニズム解明に挑戦するための機能評価系構築の第一歩として、分子特性に関する知見が蓄積されている機械受容体・マウス TRPV4 のショウジョウバエ味覚器への異所性発現を試みた。ハエ味覚器は機械的刺激を intact な神経に加えつつ、同時に神経応答を測定できるので、培養細胞などを用いた既存の実験系にはない、機械受容体の分子特性決定に有利な特徴を備えているからである。残念ながら、TRPV4 の機能的異所性発現は現時点では確認できていないが、遺伝子発現量を増やし、TRPV4 の 5' 端にハエ味覚遺伝子のシグナルペプチドを付加して細胞膜への誘導を促進するなど、任意の外來機械受容体をハエ味覚ニューロンへ高効率に発現させる手法の構築に努めている (下図参照)。また、ハエ味覚ニューロンに定性的かつ定量的な機械刺激を加えるために、茨城大学工学部の増澤徹先生と共同で、機械刺激プローブ先端を 200 nM ~ 1 μM の振幅で、100 ~ 1000Hz で振動させることが出来るナノ振動細胞刺激装置を開発した。

この研究は「日本学術振興会科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究) を受けた。



論文付図がTissue & Cell誌の表紙を飾りました

歯学部生体構造学講座口腔組織学分野 安部仁晴

活性酸素は細胞を傷つけ、死に追い込んでしまう分子であることは、世間に広く知られております。しかし、活性酸素は生理的機能を発現するために産生される場合があり、体内の様々な機能に関連することが最近知られてきました。我々は、口腔のみならず種々の器官における活性酸素の産生とその機能に関して研究しています。この度、Noxという活性酸素を合成する酵素の局在を解析することで、骨形成過程の一つである軟骨内骨化において、軟骨細胞の成熟と骨芽細胞による骨の形成に、活性酸素が関与することを明らかにしました。これらの結果をまとめ、英文雑誌のTissue and Cellにて発表し、実験結果の写真が2014年46巻6号の表紙に採用されました。今後も、多様な生理的役割を担う活性酸素の未知の機能を解明したいと考えております。

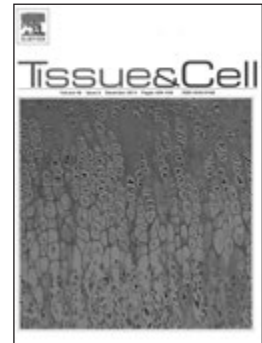
Kimiharu Ambe, Hiroki Watanabe, Shinya Takahashi, Toshihiro Nakagawa

安部仁晴、渡邊弘樹、高橋進也、中川敬浩

Immunohistochemical localization of Nox1, Nox4 and Mn-SOD in mouse femur during endochondral ossification

マウス大腿骨軟骨内骨化におけるNox1、Nox4およびMn-SODの免疫組織化学的局在

Tissue and Cell 46(6), 433-438, 2014.



国際学会

ボストンでの第93回国際歯科研究学会に
歯科麻酔部門の会長として参加

3月11日(水)から3月14日(土)まで、米国ボストンで開催された第93回国際歯科研究学会 (IADR) に参加した。この学会は歯科で最大の国際学会であり、特に、今回は参加者および発表演題数が多く、世界から2万人以上の参加者が集まり、4,637演題もの発表がなされた。その中で、今回、私はDental Anesthesiology Group (歯科麻酔学部門) のPresident (会長) およびGroup Program Chair (GPC) を務めた。

昨年7月にケープタウンで行われた第92回IADRまで、副会長を2年間務めた後、会長に就任した。この半年間は、学会賞の設定、抄録の選定、プログラムの設定、日程と場所の設定、座長の依頼、会議やレセプションの設定など、多くの仕事に追われた。その仕事全ては、IADRの本部と英語でのやりとりであったが、多くの協力を得て、無事終えることができた。今後も、Immediate Past President (前会長) として、IADRの歯科麻酔学部門のカウンセラー、査読、座長などに関わらなければならない。

(歯学部 歯科麻酔学分野 教授 山崎信也)

第93回国際歯科研究学会にて
Septodont Prizeを受賞

私は、3月11日(水)から14日(土)までBostonで開催された第93回国際歯科研究学会 (IADR) に参加し、Changes of Lidocaine Concentration in the Jaw Bone and Tissues [顎骨や口腔粘膜におけるリドカイン濃度の変化] という演題で発表を行いました。大変嬉しいことに、歯科麻酔学部門の全31演題の中で最も高い評価を頂き、2015年のSeptodont Prizeを受賞することができました。日本から離れた地での予期せぬ受賞に驚いております。今回は特に、液体クロマトグラフィーを用いて直接組織内のリドカイン濃度を測定した研究内容を高く評価して頂き、その結果に大変興味を持って頂きました。普段多く使用する麻酔薬だからこそ、その作用や効果を明らかにして実際の臨床に役立たせることができればと思います。

(歯学部 歯科麻酔学分野 院生 田中絵里)



「サリドマイド禍から学ぶ」を聴講して

薬学部 衛藤雅昭

昨年の12月11日(木)第3講目に第2講義棟において、増山ゆかり氏による「サリドマイド禍から学ぶ」の講義を1年生約120名と教職員が拝聴しました。この講義は、厚生労働省による「薬害防止のため薬害被害者の声を聴く授業を積極的に実施するように」という指導にもとづいて本学薬学部において3年前から実施されています。薬害被害者の声を聴く授業が実施されているのは、全国74薬学部中65学部、29歯学部中13学部、79医学部中45学部と報告されています。本学部にこの講義を導入して感じることは、薬学部生に大きな感銘を与え、薬学の勉学に一生懸命に取り組まねばならないという自覚と動機を与えたことだと思います。1年生永井メイさんのレポートをここに紹介します。

今回、サリドマイド薬害の被害者の方の講義を聴講して、教科書だけでは分からなかったことをたくさん知ることができました。サリドマイドは手指の奇形を生じさせることは知っていましたが、内部障害も引き起こすこと、また服用した本人にも末梢神経炎が起

ることなどは知りませんでした。サリドマイドの被害者はたとえ無事に成長して大人になっても病気になりやすく、内部障害によって治療できる可能性が低く、被害はまだ終わっていないという言葉にショックを受けました。なぜなら薬害について勉強していても、その被害者たちがそれからどのような生活をされていたのか、考えたこともなかったからです。

遺伝子による障害と異なり、サリドマイドのような薬害は防ぐことができたはずであり、だからこそ薬害=人災という増山氏の表現に納得しました。私もこれから薬剤師という薬の専門家になる身として、薬のことだけを考えるのではなく、患者さんや患者さんの未来、家族のことまで考えられる薬剤師になりたいと思いました。最後に、増山氏の生活の様子を拝見してすごいと感動しました。何でも自分でできる、いろいろなことにチャレンジする、自分は自分以外の誰にもなれないのだから。今回の講義では、薬害のことだけではなく、人生を生きるとはどういうことかについても教えて頂いたような気がします。

「目標めざして」と学生にエール ～郡山駅長さんを訪問して～

五月女徳子

私たちが普段利用している郡山駅が近ごろ華やかになったなと感じている方も多いのではないのでしょうか。四季折々の飾り付けがなされ、例えば昨秋はくかかしのお迎えする駅をテーマとして装われ、この冬は<イエロークリスマス>と題して、元気・幸福をイメージした黄色一色に駅を装飾。構内ホールではクリスマスコンサートも開かれました。

そんな中、本誌編集委員ら3人が、俳優のような笑顔が素敵な、百々潤司(どど じゅんじ)第13代郡山駅長さんを突撃訪問いたしました。

「何度でも来たいと思う駅、ドキドキ、ワクワク、感動・感激が伝わる駅」、そんな駅にしたいと、駅長さん始めJR社員一丸となり取り組んでいるようです。「困ったことがあったら、いつでも駅長のところへ来い!」と、百々駅長さんは胸を張ります。郡山駅では駅長自身が駅是<前へ>を策定し、前例にとらわれない斬新な発想、あきらめない心、やり遂げる強い意志をもって業務に専念するよう指導しています。4月から始まる『ふくしまステーション・キャンペーン』を契機として、駅だけにとどまらず、郡山の街全体を盛り上げていきたいと、百々駅長さんは大きな意欲を示していらっしゃいました。

最後に、奥羽大学生にエールをいただきました。「自分はどうしたいのか、思いを凝らしてほしい。その思いが社会貢献につながると、より、やり甲斐が生まれる。そうなれば、責任感とプライドをもって、仕事に邁進できる。お互いに目標達成に向けてがんばろう」。

大学へと帰る車の中で、仕事にプライドを持ち、やり甲斐を感じている自分、勇気をもって前へと進んでいく自分、そんななりたい自分を思い描いていました。



附属病院

臨床教育セミナー特別講演会

3月26日(木)に今年度最後の臨床教育セミナーの特別講演会が開催された。

赤川学長を講師に迎え、「超高齢化社会における歯科医療の新たな道」と題した講演は、要支援者・要介護者の増大が予想される中、摂食・嚥下障害への対応等で在宅高齢者の生活を支えていくことが歯科医師にとって重要である、との解説がなされた。

臨床研修医、大学院生等の若手歯科医のみならず、多くの教職員が聴講し、大変盛況であった。



平成26年度歯科医師臨床研修修了式

平成26年度歯科医師臨床研修修了式が3月27日(金)臨床講義室で挙行され、多くの出席者が見守る中、鎌田研修管理委員長より29名の研修歯科医に修了証が授与された。続いて病院長から、今日歯科医療界にはいくつかの新しいフィールドが誕生しているので、日々の研鑽を継続するよう訓示があった。また専任教員の清野准教授からは、素直であること、謙虚であること、そして貪欲であることを期待する、とはなむけの言葉があった。

研修修了者はそれぞれの進路での活躍を誓い合っていた。



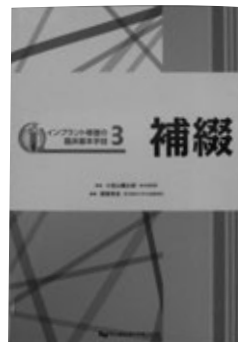
自著を語る

『インプラント修復の臨床基本手技3 補綴』 関根秀志著 デンタルダイヤモンド社 2013

本書は、小宮山彌太郎先生の監修で企画された「インプラント修復の臨床基本手技」4巻シリーズ：「診査・診断」、「外科」、「補綴」そして「トラブル対応とメンテナンス」の第3巻である。ジルコニア素材やCAD/CAMの臨床応用など最新の臨床を、多くの写真を用いて手順・術式に加え要点となる技工操作のポイントを解説した。「読みやすく」を第一義とした編集部の意向で、一項目を見開きページに納める形式となっている。本巻は中国語にも翻訳された。

インプラント治療は、多領域連携型の包括的歯科医療であることから、あらゆる歯科臨床の場面で参考となる情報を含んでいると確信している。ぜひ、4巻通しでお目通しいただきたい。

(歯学部 歯科補綴学講座 口腔インプラント学分野 教授 関根秀志)



郡山市教委と学習支援に関する協定

3月26日、郡山市役所内において、本学赤川安正学長と郡山市教育委員会小野義明教育長の間で「学生ボランティアによる児童生徒の学習支援等への参画に関する協定」が結ばれた。この協定は、本学の学生が郡山市内の小・中学校へ学生ボランティアとして参加し、児童生徒の学習活動を支援することを目的としている。加えて、本学の理念である「人間性豊かな歯科医師・薬剤師」を目指すための一助となることも期待される。

なお、本協定は郡山女子大学、同短期大学部、日本大学工学部とも取り交わされた。各大学の学生が連携して、新たな形で地域社会に貢献できる取組が推進されることとなりそうだ。学生ボランティアは、早ければ夏休みなどを利用して、各学校や公民館などに派遣され、教諭とともに活動を開始する予定。



左から石堂常世郡山女子大副学長、小野義明市教育長、藤原雅美日大工学部次長、赤川安正本学学長

郡山市教育委員会と本学が取り交わした協定書の内容は次の通り。

郡山市教育委員会（以下「甲」という。）と奥羽大学（以下「乙」という。）は、次のとおり学生ボランティアによる児童生徒の学習支援等への参画に関する協定（以下「本協定」という。）を締結する

（目的）

第1条 本協定は、甲及び乙が連携・協力を強化し、乙の学生ボランティアが郡山市立小・中学校（以下「小・中学校」という。）の児童生徒への学習支援等に参画することにより、児童生徒の学びの環境の充実を図り、郡山市の教育水準の向上に資することを目的とする。

（連携・協力事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携し、協力する。

- (1) 小・中学校における放課後、土曜日等の休日、長期休業日等の児童生徒への学習支援に関すること。
- (2) その他前条の目的を達成するために甲及び乙が必要と認める事項に関すること。

（実施内容等）

第3条 本協定に基づく具体的な取組みの内容及び実施方法については、第1条の目的を達成するために、双方協議の上、実施していくものとする。

（有効期間）

第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、有効期間満了の日の1月前までに甲又は乙から解約の申し出がない場合は、引き続き1年間延長されるものとし、以後も同様とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、甲又は乙から解約の申し出があり、甲又は乙が合意したときは、終了するものとする。

（その他）

第5条 本協定に定めるもののほか、連携・協力事項に関し必要な事項は、双方協議の上決定する。



ラグビー部の紹介

私たちラグビー部は、全日本歯科学学生総合体育大会・第一三共カップメディカルセブンズの主に2つの大会での勝利を目指して活動しています。

昨年末、郡山市で開催された、第47回全日本歯科学学生総合体育大会ラグビーフットボール部門では、主管校として運営・管理を行い、無事に大会を開催・終了することができました。

今大会から試合は7人制ラグビーに変更され、本学も出場しました。結果は悔いの残るものとなってしまいましたが、部員個々の反省点や課題が発見でき、良い経験を積むことができた大会でした。

この経験を活かして来年度の大会では、良い成績を収めることができるように、我々ラグビー部員一同、努力していきたいと思えます。更に私たちの部

活は、OB・OGの先生方との関わりが深く、毎年ご指導・ご支援を頂いております。良い伝統がある、とても環境の整った部活動です。

部員・顧問・OB・OGの力を合わせて、チーム一丸となって目標に向かって頑張ります。応援宜しくお願いします。



奥羽大now

今様語り部編、レッツ合宿!

奥羽大学は磐梯熱海に由緒ある保養所を所有しております。当然のことではございますが、天然温泉のかけ流しという何とも贅沢なシチュエーションとなっております。

今年度初の試みではございましたが、薬学部6年生の中から選抜メンバーの7名を対象とした松陰塾さながらの夏合宿が実施され、早や半年近くが経過しました。6回生は蝉の声にも負けないよう、一生懸命勉強し、日々、良い汗をかき、無事、第100回薬剤師国家試験も終了致しましたので、ここにご報告させていただきます。思い起こせば半年も前のことではございますが、時間が経過するのはとても早く、昨日の出来事のようにも思われます。夏合宿は寝起きを共にした規則正しい生活リズムでスタートしました。満天の夜空を見上げるロケーションを満

喫できる露天風呂では、「川のせせらぎ」、「虫たちの合唱」にも耳を傾け、身も心も癒されたことと思います。普段であれば、多分、朝食も口にしない下宿暮らしの学生達ではございますが、心温まる手料理に、「おかわり!」「おかわり!」と元気よく、日本昔話にも出てきそうな「お茶碗テンコ盛り」のご飯を感謝して食べておりましたとさ。

皆様方のご支援を頂きながら、一つ一つ年輪を重ねるように立派に、すくすくと成長しているところではございますが、夢と希望に満ちあふれた薬剤師の卵に、皆様方からの温かいエールをお待ちしております。



父兄会

平成27年度歯学部・薬学部父兄会役員ならびに主な行事予定と予算については下記のとおりである。

歯学部

〔平成27年度役員〕

歯学部父兄会

会 長 佐藤 功二
副会長 箱崎 仁
監査役 田中 裕

〔主な行事予定〕

定時総会 平成27年 4月 4日(土)
平成27年 5月16日(土)
平成28年 3月10日(木)
共済基金委員会 平成27年 5月16日(土)
平成27年10月17日(土)
幹事会 平成27年 5月16日(土)
平成28年 3月10日(木)

地域会(全体会・個別懇談会・懇親会)

平成27年 6月21日(日)	東京	大森東急イン
平成27年 6月28日(日)	福岡	福岡ガーデンパレス
平成27年 7月 5日(日)	大阪	大阪ガーデンパレス

〔予 算〕

(収入の部) 単位:円

科 目	本年度予算額
前年度繰越金	13,745,137
入 会 金	610,000
会 費	7,325,000
地域会参加費	200,000
雑 収 入	3,000
合 計	21,883,137

(支出の部) 単位:円

科 目	本年度予算額
通 信 費	200,000
印 刷 費	100,000
会 議 費	800,000
消 耗 品 費	250,000
旅 費 交 通 費	1,300,000
慶 弔 費	150,000
雑 費	10,000
地域会開催費	1,880,000
課外活動援助費	2,890,000
学生福利厚生費	1,150,420
奥羽大学歯学会協賛費	100,000
学 習 活 動 助 成 費	2,500,000
予 備 費	10,552,717
合 計	21,883,137

薬学部

〔平成27年度役員〕

薬学部父兄会

会 長 菅野 洋一
副会長 澁川 直久
監査役 松崎 三雄

〔主な行事予定〕

定時総会 平成27年 4月 4日(土)
平成27年 5月22日(金)
平成28年 3月10日(木)
幹事会 平成27年 5月22日(金)
平成28年 3月10日(木)
保護者懇談会 平成27年 5月22日(金)
平成27年10月24日(土)

〔予 算〕

(収入の部) 単位:円

科 目	本年度予算額
前年度繰越金	31,115,724
入 会 金	1,400,000
会 費	13,700,000
雑 収 入	10,000
合 計	46,225,724

(支出の部) 単位:円

項 目	本年度予算額
通 信 費	200,000
印 刷 費	100,000
会 議 費	1,300,000
消 耗 品 費	50,000
旅 費 交 通 費	400,000
雑 費	150,000
課外活動援助費	1,600,000
学生福利厚生費	19,740,000
予 備 費	22,685,724
合 計	46,225,724

図書館で3.11写真展

2月10日(火)から3月11日(水)まで、図書館の写真展「あの日を忘れない 東日本大震災から4年 本学図書館の惨状と復旧」は図書館1階階段スペースを利用して開かれた。横倒しになった書架や散乱した図書、山の、天井から怒涛のように落下した水道水と浸水図書、書架の解体と新書架の組み立てなどの写真33枚と震災関連図書が展示された。大震災のすさまじさと破壊力の恐ろしさが改めて示された。



同窓会だより

橋詰 雅志(東京支部理事 歯学部15期生)

同窓の先生方におかれましては益々ご健勝でご活躍の事とお慶び申し上げます。東京支部で理事を務めております、15期の橋詰雅志です。

当支部の現況を報告したいと思います。全会員数は約320人、執行部役員24人で運営しております。支部の平成26年度の活動としましては年10回の理事会、3月の総会と学術講演会、7月に保険講習会と納涼会、9月学術講演会、12月忘年会と学術講演会、そしてつい先日の2月11日12日で箱根にて執行部親睦旅行に行き、今後の東京支部の将来を皆で語り合いました。3月総会後の学術講演会では昨年本学の教授に就任された関根秀志先生に『安心安全なインプラント治療の為のリスクマネージメント』についてご講演頂き、今では一般的な治療になったインプラントの注意点を改めて教えて頂きました。

東京という土地柄、潜在的な同窓生はかなりの数に上るとは思いますが、当支部主催の納涼会や忘年会等は参加者の大部分が役員とその家族というのが現状です。それでもここ数年は若い先生が理事に就任してくれたり、学術講演会に参加されたりと徐々に活性化が始まったようです。今後の課題としましては、一般会員の方々が参加しやすい、参加したくなる開かれた東京支部に努力して行くことが必要だと思います。これから東京で開業される先生や、既に開業されていてまだ東京支部会員になられていない先生方のご連絡をお待ちしております。

最後に当支部会員が現在下記の各機関にて活躍中です。

- 1 日本歯科医師会広報ホームページ委員会委員 1名
- 2 日学歯監事 1名
- 3 東京都歯科医師会代議員 2名
- 4 〃 〃 各委員会在籍 2名
- 5 地区歯科医師会会長 1名
- 6 各地区歯科医師会理事 多数在籍

在京の同窓の先生方で診療等のお悩み等がございましたら、東京支部同窓会まで遠慮なくご相談下さい。



同窓生のひろば



小松 純一（歯学部7期生）

7期生の小松純一です。最初に秋田県支部を少し紹介します。25年前の昭和62年4月に一期生の田口昭博先生からの、そろそろ秋田にも支部を作ろうよの一声で

発足しました。当所は34名でしたが現在は51名です。

初代支部長はもちろん 言い出しっぺで気遣いの田口昭博先生です。その後極めて温厚な2期生の松田稔先生、そしていつもニコニコラガーマンの5期生の古田大先生、そして現在は真面目頑張り屋の3期生畠山桂郎先生です。歴代支部長のお陰を持ちまして、なんでも話のできるアットホームな会になっています。秋田にお越しの際には是非声をおかけ下さい。

では私の個人的な近況を・・・なんせ入学時がすでに32歳だったもので、すでに66歳、入学時は爺と言われていましたが、現在は名実ともに爺に成りました。生来の楽天的な性格のせいとか、とくに病気もなく老眼にもならず、なんとなく、毎日、楽しく診療しています。6年程前、長男が秋田市郊外の里山に吹きガラスの工房を開きました。ショップが併設されており、妻と共に週末は店番、店回りのガーデニングに押し掛けております。隣の敷地に畑もやっています。300坪ありじゃがいも、トマト、キュウリ、ゴウヤ、落花生、かぼちゃ、大根等かなり沢山の野菜を作ってます。自称兼業農家です。来年の為の堆肥から土作り、完全な有機肥料と無農薬です。使っている農薬はひたすらテデトールだけです。農業は奥が深く何年たっても問題が沢山あり、いまだまともな野菜ができておりません。毎年違う害虫が大発生。一昨年はカメムシ、去年はテントウムシ、今年はカタツムリ、なんと想像を絶するほどの数で一枚の葉っぱに10匹ほどの小さなカタツムリが畑じゅうに何千匹もいると思うとクラクラします。その他毎日実り具合をみて確認にやってくるカモシカ、人を怖がらないアナグマ、たぬき等と共生しています。ガラス工房の名前はヴェトロと言いますがそこで飼っている6歳の雑種の雌犬ムーコが最近ちょこっとブレイクしています。隔週発売の漫画雑誌イブニングに昨年の4月から『いとしのムーコ』として連載されており、今年4月講談社から単行本第一刊が発売されました。機会がありましたらご覧下さい。ガラス作りの体験も行っています。どうぞ秋田に遊びに来て下さい。



齋藤 正博（文学部11期生）

皆様、こんにちは。私は、奥羽大学文学部を卒業しました齋藤正博です。早いもので大学を卒業し、12年が経とうとしています。

在学当時は、高校までの授業とは違う大勢の学生が広い教室で受ける大学の「講義」についていくのが精一杯だったような気がします。テキストを見ながら必死でメモをとったり、レポートをまとめるために大学の図書館で長い時間文献を探したりしたこともありました。また、仲間ととりとめのない話をくり返した学食の「メモリー」での時間も、今では懐かしく感じられます。

大学卒業後は、将来の夢であった中学校の教員を目指し、福島（現在は、いわき市）で常勤講師として勤務しています。実際に勤務してみると、授業のための教材研究や部活動の指導、学校行事の準備など大変なことも多々ありますが、充実した毎日を送っております。その支えになっているのが「ふくしま国語教育の会」の存在でした。

この会は、奥羽大学文学部出身の教鞭を執っている先生方が、よりよい教育を行うために日々の実践報告や悩みを語る場として立ち上げられました。大学の保養施設「無垢苑」で研修会を開いたり、様々な文学ゆかりの地を巡ったりしました。また、教科指導だけでなく、生徒指導や部活動の指導、大学時代の話をしたことがとても勉強になり、励みにもなりました。しかし、近年では集まる機会も少なくなっていました。

去年の夏、久しぶりに奥羽大学を訪れる機会がありました。そこで、旧文学部棟や学食の「メモリー」、図書館や体育館を見て回ると、当時のことを懐かしく思いました。と同時に、文学部がなくなってしまったことが残念でなりません。『本の虫は歓迎します!』という言葉で本に対する興味・関心をかき立て、文学の面白さを教えてくれた奥羽大学。今度は、自分が「国語の教師」として言葉や読書の面白さを伝える立場になりました。時には上手くいかず、自分の不甲斐なさに落ち込む日もありますが、生徒のよりよい成長のためにたゆまぬ努力を続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、その支えとなる「ふくしま国語教育の会」の活動を再び活発にしたいと考えています。会の名称は堅く感じますが、日々の実践報告や悩み、大学時代の思い出話など、気軽に話し合える機会ですので、今後とも宜しくお願い致します。それでは、また会う日まで…。

人事

〈任用〉	佐藤 栄作	教授	薬学部	1月1日付
〈再任用〉	齋藤 高弘	教授	口腔衛生学	1月15日付
〈再雇用〉	原田 清子	労務職員	総務部	1月2日付
	佐藤 道子	事務職員	薬学部学事部	1月7日付
	榑原 直文	課長	薬学部学事部	2月8日付
〈異動〉		新 旧		
	小林 勝彦	総務係長	財務部長	2月1日付
〈退職〉				
	長嶋 友美	助手	薬学部	12月31日付
	和高 明美	歯科衛生士主任	病院医療部	1月31日付
	米原 典史	教授	口腔病態解析制御学	3月31日付
	小畑 良夫	准教授	ドイツ語	〃
	松山 仁昭	講師	成長発育歯学	〃
	河西 敬一	助教	口腔外科学	〃
	河米 織	助教	口腔病態解析制御学	〃
	龍方 一朗	助教	生体材料学	〃
	鎌田 政善	教授	臨床床	〃
	赤城 陽	講師	臨床床	〃
	有馬 英一	助教	臨床床	〃
	森 慎一郎	助教	臨床床	〃
	鈴木 一翔	助教	臨床床	〃
	田口 慎哉	助教	臨床床	〃
	福元 梨沙	助教	臨床床	〃
	森 直広	助教	臨床床	〃
	吉田 綾子	助教	臨床床	〃
	須田 修二	助教	臨床床	〃
	重田 匡輝	助教	臨床床	〃
	北條 杏子	助教	臨床床	〃
	高田 芳伸	教授	薬学部	〃
	矢部 政幸	技術職員	総務部	〃
	渡部 幸一	主任	企画・広報課	〃
	五月 女 徳子	事務職員	図書館事務部	〃
	柳 沼 恵子	臨床検査技師	病院医療部	〃
〈定年〉				
	佐藤 道子	(助手)	薬学部学事部	12月5日付
	原田 清子	労務職員	総務部	1月1日付
	齋藤 高弘	教授	口腔衛生学	1月14日付
	黒田 よし子	課長	図書館事務部	1月18日付
	榑原 直文	課長	薬学部学事部	2月7日付
	川 島 功	教授	生体材料学	3月31日付

新任教授紹介



薬学部 医療薬学分野
教授 佐藤 栄作

1月1日付で薬学部医療薬学
分野教授を拝命いたしました。

私は郡山市で生まれ、安積高
校を卒業し、東北大学薬学部

に進みました。同大学院修士課程を修了後、三菱化学
医薬研究所にて主に動物を使用した降圧薬の開発研
究に携わり、その後、秋田大学医学部、青森大学薬
学部教員として遺伝子発現細胞を用いたイオンチャ
ネルの分子構造と機能に関する研究と学生教育に従
事してまいりました。

故郷での生活は約30年ぶりとなりましたが、当時
とは環境も大きく様変わりし、時の流れを実感して
おります。同様に、薬剤師養成を目的とする薬学
教育は6年制と変わり、学生には医療人に相応し
い専門的な知識と技術を兼ね備えることが求め
られるようになりました。このたび地元で後輩
を育てる大変有意義な機会をいただきました
ので、地域の活性化につながる多くの人材を
輩出できるよう、研究・教育ともに精一杯
努力してまいります。今後ともご指導のほど
宜しくお願い申し上げます。

懐かしの「学報」

(左) 東北歯科大学報16巻11, 12号

(最終号、平成元年3月)

(右) 奥羽大学報1号(平成元年5月)



退職によせて



歯学部 生体材料学
教授 川島 功

平成19年10月1日付で赴任以来、7年半ほどでしたが、3月31日をもって定年退職することとなりました。無事に職務を遂行できたのは講座の皆様、職場の方々の援助のおかげであり感謝の気持ちで一杯です。また、研究データを得るのに、大型機器を利用させていただいた県立ハイテクプラザの皆様にもお世話になりました。

在職中特に記憶に残っていることは、東日本大震災のあった平成23年の秋に歯科理工学会の全国大会を本学講堂で開催できたことです。風評被害の中、学会の常任理事会で何度か協議され、結果的に本学での開催となりました。JAXAの矢野創先生の講演に加え、全国からの多くの演題が集まり、無事に終了できました。

日々の教育活動では、多くの学生に対して、勉学以外にも多方面から積極的に交流することに努めました。その中で彼らの持ち前の若さと一途な求める姿勢を見ることが出来、いつも清新な気持ちで講義や研究を行うことが出来ました。

最後になりましたが、本学の更なるご発展を祈念致します。本当にありがとうございました。



歯学部 歯科補綴学
教授 鎌田 政善

1972年4月に東北歯科大学の一期生として入学し、1978年3月に卒業した後、同年5月から歯科補綴学第一講座の助手に任用されました。37年間大学勤務させて頂きましたが、定年の節目として2015年の3月31日で退職することになりました。学生時代を含めると43年間も郡山で生活したことになり、多くの方々とお別れするのが少し辛いと言った状況です。

2000年の5月に教授に任用して頂きました。この時期は「21世紀における歯学教育の改革」が進められていた時期でもあり、卒後臨床研修の必修化や共用試験の導入に加えて教員の資質向上のためのワークショップの開催やFD委員会の立ち上げと言った問題が山積みされていました。新任の教授ではありましたが、これらの点に全て係ってこられたことは私にとって大きな財産となりました。夜遅くまで先輩の教授や同僚、さらには他大学の友人達と歯学教育のあり方について話し合ったことが走馬灯のように脳裏を過ぎります。

さて、これからの歯学教育に関しては世界に共通した歯学教育の「質（基本理念）」が問われてきます。大学としての一貫した教育理念、その教育に携わる教員の一致した教育理念が必要となります。教員全員が一致した考えを持つことは不可能に近いかと思いますが、無理だと思いつくしなければ奥羽大学の発展は無いと考えています。同じ考えを持つ教員が半数を超えたら大学を変えることができます。教育を変えることができます。教員が一致団結して奥羽大学が益々発展することを祈っております。

最後になりましたが、私がここまで無事に職務を全うできましたのも、教職員ならびに事務職員の方々のご支援・ご協力の賜物であると心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



歯学部 歯科薬理学
教授 米原 典史

平成18年4月、大阪から本学に赴任し薬学部で5年間、歯学部で4年間お世話になりましたが、この度3月31日をもって退職することになりました。この文の依頼を受け書き始めると、9年間の奥羽大学での出来事が走馬灯のように頭の中を駆けめぐり改めて退職を実感しています。薬学部へ赴任した時期は、4年制課程から6年制課程の移行期に当たり病院薬剤部、薬局等の訪問に明け暮れ、学生の卒業研究指導、国家試験対策に追われる日々でしたが、今思えば掛け替えのない貴重な経験でした。また4年前の3月11日の東日本大震災当日は、歯学部へ移動するため歯学部薬理学教室で教室員の方々と打ち合わせしている最中でした。揺れがいつまでも収まらず棚から物が落ちる中を外に無我夢中で飛び出したことが鮮明に思い出されます。私が、奥羽大学に赴任し薬学部・歯学部と二つの学部で何とかやり終えることができたことは、皆様のご支援とご指導があったからこそ心から感謝しております。いま、日本では65歳以上の人口の割合が26%を占める超高齢社会となりつつあります。私もその仲間入りすることになります。大阪大学時代のある教授は、私に「米原君、50過ぎまで研究をすれば、次の君の役目は教育だよ」と、それに続き「教育の後には、ライセンスだよ」とも言われました。いい教育をしてきたかと問われると忸怩たらざることを感じ得ませんが、何はともあれ本学で養われた体験を元に健康で元気な高齢者として、これから少しでも社会貢献ができればと考えております。最後になりましたが、奥羽大学の益々の発展を心からお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

お知らせ

オープンキャンパス開催

開催日	時間	内容
7月18日(土)	10:00~13:00	学部紹介、入試説明、ミニ講義 キャンパス見学、実習体験、個別相談 等
7月25日(土)	10:00~13:00	
8月6日(木)	13:00~16:00	
10月18日(日)	10:00~14:00	個別相談会(奥羽祭開催中)
2016年 3月24日(木)	13:00~16:00	学部紹介、ミニ講義、キャンパス見学、実習体験、個別相談 等

出張大学説明会

開催地・会場	開催日	時間	内容
仙台 仙台ガーデンパレス	8月21日(金)	13:00~16:00	大学紹介、ミニ講義、個別相談
東京 アルカディア市ヶ谷			

詳しくはホームページでご確認ください。



善方池の白鳥

奥羽大学報145号(通算No.270)平成27年3月31日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 赤川 安正

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1

電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372

ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>

メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。